『海外獣医大学の卒業生の方に Interview！①　久保山　芳嗣 先生』後半記事です！

◆研究室に所属したり、卒業論文を書いたりするのはありますか？

組織としての研究室みたいなものはなかったです。担当の教授の先生がいて、その下に学生がいて指導を受けるという構造はあるのですが、それぞれの先生と学生が個別にコミュニケーションをとって研究などを進めていく感じで、研究室の同期みたいな概念はなかったですね。小動物臨床系のテーマを選ぶ人が多かったですが、自分は爬虫類の血液に含まれる寄生虫抗原を網羅的にサーベイランスするというテーマで研究を行いました。研究に必要な費用も学生自身が支払う必要がありましたが、企業などがお金を出してくれる研究テーマを選んで自分で費用を出す必要がない研究をする人も多くいました。大学の先生も日本やアメリカなどの大学で学んだことのある先生が多いので、そういった外国の大学との共同研究なんかも多かったですね。

◆フィリピン在学中特に印象に残ったこと、大変だったことはありますか？

一番大変だったのはフィリピン語（タガログ語）ですね～。一応授業は基本的に英語で進められますし、教科書等も英語なのですが、レジュメについてよりわかりやすく先生が補足説明する場合などはしばしばフィリピン語で話されたり、小テストの最中に先生が出すヒントがフィリピン語だったりして苦労しました（笑）。フィリピン人学生同士もフィリピン語で話すことが多かったので友達と英語で話していると浮くような感じもあって、大学に入学して最初に一番ショックを受けた出来事でしたね。

◆大学周辺の住環境や生活環境はどうでしたか？

フィリピン大学ロスバニョス校のあったところは首都マニラから車で 2～3 時間くらいの田舎で、大学関係の人が多く住む学園都市みたいな感じでした。自然保護区に指定されている大学の保有する山がすぐそばにあって、そこで研究を行う人も多かったですね。学生向けのレストランや飲み屋、スーパーが近くにたくさんあったので生活には困りませんでした。ジムニーという乗り合いバスが 1 時間に何回か来る感じで街中を走っていたので、移動にはそれを利用することが多かったです。

大学の中に学生寮はありましたが、Wi－Fi がないなど非常に不便だったので、特に日本からの留学生のほとんどは大学付近にアパートを借りていました。家族で住むような大きな部屋を借りても家賃は 2 万円程度で済んだので、そういうところを借りて 2, 3 人でルームシェアをする人が多かったです。

◆フィリピンの獣医学生はどんな方面に就職するのでしょうか？

全体の８割程度の学生は小動物臨床に進みますね。他には飼料会社や養鶏場、自然保護区などに就職する人が多いです。牛、特に乳牛はフィリピンが暑すぎてなかなか乳量が取れないので飼養頭数は非常に少ないですね。馬もごく一部で競馬の獣医師の方がいらっしゃるくらいで非常に人数としては少ないです。フィリピンは動物の密輸事件なども多いので、そういう密輸動物の取り締まりや治療にあたっている獣医師の方も多いですね。

◆ありがとうございます。最後に、今後の先生の将来のキャリアプランを教えていただきたいです。

残念ながら、フィリピン国籍を持たない外国人留学生はフィリピン大学獣医学部を卒業してもフィリピンの獣医師国家試験を受けられないので、現在は帰国して、農林水産省に審査のため必要な書類を提出している最中です。他の外国人留学生は、フィリピン大学を卒業した後はアメリカに渡航してアメリカで獣医師免許の取得を目指す方などが多いですね。

久保山先生、お忙しいところお時間を割いていただきありがとうございました！

編集：宮崎大学農学部獣医学科４年次　高橋和暉